

KDDI 総研 R&A 誌は定期購読（年間 27,468 円）がお得です。お申し込みは、KDDI 総研ブックオンデマンドサービスまで。既刊の PDF 無料ダウンロードの特典もあります。

(<http://www.bookpark.ne.jp/kddi/>)

カナダの携帯電話市場の動向



カナダの携帯電話市場の動向

🕒 記事のポイント

サマリー

ブロードバンド先進国として名高いカナダだが、携帯電話の分野では欧州やアジアの主要国の後塵を拝しており、2004年末現在、加入者数約1,500万、普及率もまだ50%にも満たない状況である。しかし、ここ1、2年は事業者間のM&A、Virgin Groupの進出といった注目される動きも出てきており、今後はナンバーポータビリティの導入をひとつのきっかけに、事業者間の競争も活発化することが予想される。

本稿では、カナダの携帯電話市場概況、主要事業者の最近の動向、ナンバーポータビリティ導入に向けた動きなどを紹介する。

主な登場者 Rogers Wireless Bell Mobility TELUS Mobility Virgin Mobile Canada
CRTC

キーワード モバイル Push-to-Talk (PTT) ナンバーポータビリティ FMS

地 域 カナダ

執筆者 KDDI総研 政策研究G 山條 朋子 (to-yamajo@kddi.com)

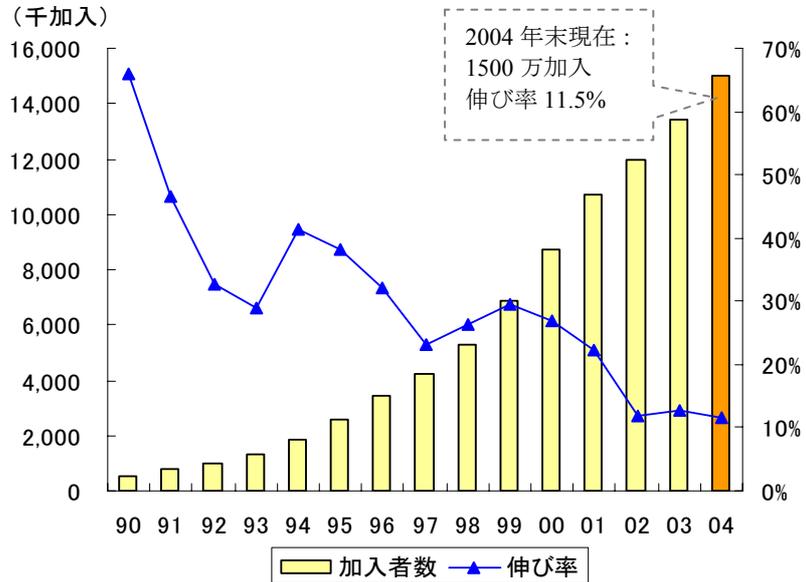
1 カナダのモバイル市場概観

1-1 総加入者数、伸び率、普及率、通信方式

カナダのモバイル業界団体であるCWTA（The Canadian Wireless Telecommunications Association）のデータによると、カナダの携帯電話市場は、2004年末現在約1,500万加入で、前年末からの純増数は約155万、前年比11.5%増であった。人口普及率は約46%と、欧州やアジアの主要国と比較するとはるかに低い水準だが、伸び率は既に鈍化傾向にあり、特に2002年以降は10%台の伸び率にとどまっている（【図表1】）。

カナダの携帯電話市場の動向

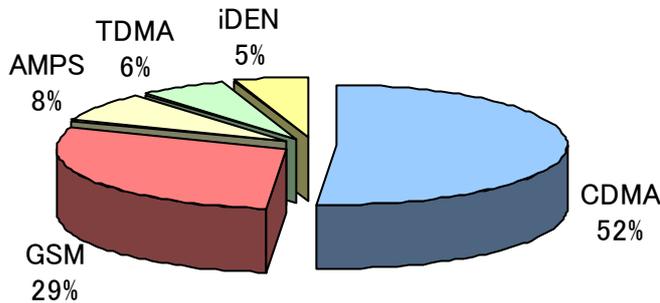
【図表1】カナダの携帯電話加入者数と伸び率の推移



(データ出典：CWTA)

通信方式別の加入者は、【図表2】に示すとおり、CDMAが約52%で半数以上を占めており、次いでGSMが約29%となっている。主要3事業者のうち、最大手のRogers WirelessがGSMを、Bell MobilityとTELUS MobilityがCDMAをそれぞれ採用している。

【図表2】カナダの通信方式別シェア (2004年末)



(データ出典：EMC World Cellular Database)

1-2 モバイル市場総収入、加入者あたり収入、解約率

カナダの通信規制機関であるカナダ・ラジオテレビ通信委員会（Canadian Radio-Television Telecommunications Commission、以下「CRTC」）の年次報告書^④（出典）によると、カナダにおけるモバイル市場の総収入は、2003年には約80億3,700万カナダドル（約7,257億円）^⑤（換算率）、1999年から2003年の年平均成長率（CAGR）は13.5%となっている。また、固定通信を含めた電気通信総収入に占めるモバイル収入の割合は、2003年には約25%に達し、固定の減少分をモバイル分野の成長がカバーする格好となっている。

【図表3】カナダの電気通信収入の推移（単位：10億カナダドル）

	1999	2000	2001	2002	2003	1999～2003 CAGR
固定	20.9	23.3	25.0	24.4	23.8	3.3%
モバイル* (総収入比)	4.8 (19%)	5.6 (19%)	6.4 (20%)	7.1 (23%)	8.0 (25%)	13.5%
合計	25.8	28.9	31.4	31.5	31.8	5.4%

*モバイルの総収入には、基本音声サービス、長距離サービス、ページング、モバイルデータ、ローミング及び端末販売が含まれる。

（データ出典：CRTC）

加入者あたりの平均収入（Average Revenue Per Unit、以下「ARPU」）は、1999年の53カナダドル（約4,786円）から年々下落していたが、2002年の48カナダドル（約4,334円）を境に、2003年は49カナダドル（約4,425円）と微増に転じている（【図表4】）。これについて、CRTCは、事業者が、プリペイド式サービスより後払い式（契約型）サービスに、これまで以上に重点を置き始めたことが一つの要因であると分



④（出典）

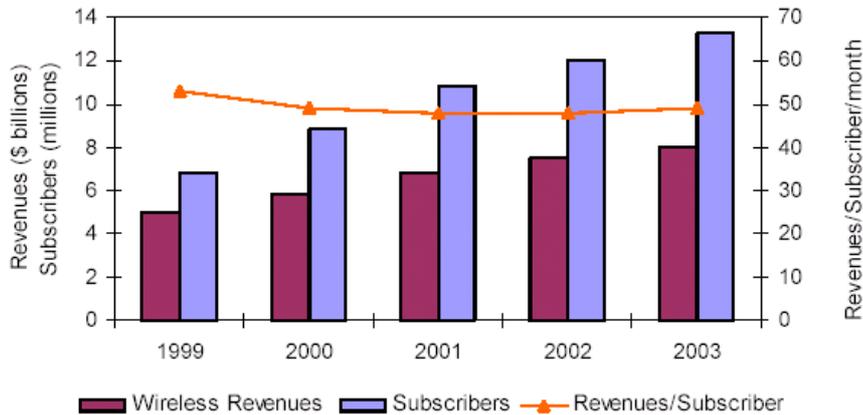
Status of Competition in Canadian Telecommunications Markets / Deployment / Accessibility of Advanced Telecommunications Infrastructure and Services
(November 2004 / CRTC)

⑤（換算率）

1カナダドル=90.30円（2005年7月1日東京市場TTMレート）

析している^④（脚注）。

【図表4】カナダのモバイル市場総収入及びARPUの推移



（出典：CRTC）

過去5年間の主要事業者の解約（チャーン）率は、月間1.4～3.4%の範囲で、比較的低い水準となっている（【図表5】）。この理由について、CRTCは、ナンバーポータビリティが導入されていないこと、通信方式が混在していること、利用者の中で長期契約が一般的となっていることなどを挙げている。

【図表5】カナダ主要事業者の解約率推移（月平均）

	2000	2001	2002	2003	2004
Rogers Wireless	2.4%	2.2%	2.0%	2.1%	1.8%*
Bell Mobility	1.5%	1.5%	1.6%	1.4%	1.3%
TELUS Mobility	2.0%	2.0%	1.8%	1.5%	1.4%
Micocell	2.2%	2.6%	3.4%	3.1%	NA

* Rogersの2004年の値はポストペイド（後払い）加入者のみ

（データ出典：CRTC、各社ホームページ）



④（脚注）

カナダのプリペイド比率は、世界的にみると元々そう高くはないが、さらに年々微減傾向にあり、2003年で24%、2004年には19%となっている。

2 携帯電話事業者の動向

CRTCによると、カナダの携帯電話事業者は17社（2005年6月末現在）となっているが、主要3社による寡占市場となっており、加入者数によるシェアは、3社合計で90%強となっている（【図表6】）。

【図表6】カナダの携帯電話事業者別加入者数（2004年12月末）

	事業者名	通信方式	加入者数	シェア
1	Rogers Wireless	AMPS/TDMA/GSM	5,492,480	36.7%
2	Bell Mobility	AMPS/CDMA	4,147,220	27.7%
3	TELUS Mobility	AMPS/CDMA/iDEN	3,936,400	26.3%
4	Aliant Telecom	AMPS/CDMA	639,660	4.3%
5	SaskTel Mobility	AMPS/CDMA	404,400	2.7%
6	MTS Mobility	AMPS/CDMA	285,800	1.9%
7	その他*	AMPS	46,100	0.3%
	合計	--	14,952,060	--

* ILECのモバイル子会社

（出典：EMC World Cellular Database）

2-1 Rogers Wireless、業界最大手に

2004年11月、当時加入者数で第2位のRogers Wirelessは、同第4位のMicorcellの買収を完了し、Bell Mobilityを抜いて業界最大手の事業者となった。

Rogers Wirelessの親会社であるRogers Communications Inc. (RCI) [☞]（脚注）は、携帯電話事業のほか、CATV事業（Rogers Cable）及びメディア事業（Rogers Media）等も手がけるカナダの大手通信関連企業である。

Rogers Wirelessは、グループ企業とのタイアップにより、携帯と固定、インター



☞（脚注）

Rogers Wirelessには、一時期、AT&T（AT&T Wireless）及びBTも出資していたが順次撤退し、2004年12月以降は、RCIの100%子会社となっている。

ネット、CATVを自由に組み合わせることができる”Better Choice Bundles”の提供を行っている。RCIは、2005年5月、地域・長距離事業者のCall-Net（ブランド名：Sprint Canada）の買収に合意しており、今後、グループとして固定・携帯・CATVの一体型サービスの提供にさらに傾注していくものと考えられる。

■ FMS型サービス、“City Fido”

Microcellが提供していた、“City Fido”は、Rogers Wirelessによる買収後も、引き続き別ブランドとして提供されている。

“City Fido”は、“City Zone”と呼ばれる市内区域内[☞]（脚注）の通話が1ヵ月の定額料金（【図表7】）で利用できるサービスで、2003年10月にバンクーバー地区でサービスが開始され、その後、トロント、モントリオールに対象区域が広がっている。

“City Fido”は、大都市の利用者を主なターゲットにしたFMS（Fixed-Mobile Substitution; 携帯による固定の代替）型サービスとして位置付けられており、固定も含めた他の事業者からも注視されているが、Rogers Wirelessは、“City Fido”サービスを継続していくかどうかは現時点では未定としている。

【図表7】 “City Fido”サービスの料金

月額料金	無料通話分数	備考
45CA\$	750分	<ul style="list-style-type: none"> 月額料金には、6.95 CA\$のシステムアクセス費も含まれる。 無料通話分を超えるCity Zone内への通話は30セント／分 City Zone外への通話は50セント／分で別途課金
75CA\$	1500分	

（“City Fido”のホームページよりKDDI総研作成）



☞（脚注）

一般に“LocalZone”と呼ばれる領域から発信された通話を携帯電話会社が識別することにより、その通話に限って特別な料金等を適用するようなサービス提供が可能となる。この領域の名称は通信事業者によって異なっており、City Fidoの場合は“City Zone”と呼ばれる。

2-2 Virgin Mobile、Canadaでサービス開始

2005年3月、カナダ第2の携帯電話事業者Bell MobilityとVirgin Group（英）の合併によるMVNO、Virgin Mobile Canadaがサービスを開始した。他地域のVirgin Mobileと同様、ティーンエージャーから30歳位までの顧客を主な対象に、月額料金・契約の不要なシンプルな料金体系のプリペイド式サービスを提供している。

加入者数については、これまでのところ明らかにされていないが、カナダでも今後、携帯電話ナンバーポータビリティの導入をきっかけに、事業者間の競争が高まることが予想されており、その際に、ブランド力を持ったVirgin Mobile Canadaはキー・プレイヤーの一つになると見られている。

2-3 TELUS MobilityのPTTサービス

TELUS Mobilityは、2000年8月、Clearnetを買収し、同社が提供していたiDEN[☞]（用語解説）ベースのPush-to-Talk（PTT）サービス、“Mike’s Direct Connect”についても引き継いでいたが、2005年1月には、CDMA 1Xのネットワーク上でも“PCS Instant Talk”の提供を開始した。

“PCS Instant Talk”の加入者数は明らかにされていないが、“Mike’s Direct Connect”サービスは、2005年3月の時点で約81万人が利用している。

【図表8】 TELUS MobilityのPTTサービス

サービス名	通信方式	加入者数	料金、サービス
“Mike’s Direct Connect”	iDEN	約81万人 (2005年3月)	<ul style="list-style-type: none"> PTTのみかけ放題のプランは月額CA\$40 携帯電話の料金プランにCA\$10/月またはCA\$20/月で上乗せ
“PCS Instant Talk”	CDMA 1X	不明	<ul style="list-style-type: none"> 月額CA\$40超の携帯電話料金プランに上乗せする場合：CA\$10/月 月額CA\$40以下の携帯電話料金プランに上乗せする場合：CA\$20/月（いずれもPTTかけ放題）

(TELUS MobilityのホームページよりKDDI総研作成)



☞ (用語解説) iDEN (integrated Digital Enhanced Network)

1996年、Motorolaが開発した業務無線 (Specialized Mobile Radio; SMR) 専用のデジタル通信方式。

3 ナンバーポータビリティ導入の動き

2005年4月、CWTAは、カナダの主要携帯電話事業者^①がナンバーポータビリティ (Local Number Portability、以下「LNP」) の導入に合意したことを発表した。今後、外部のコンサルタントにより、本年9月までに導入計画案が準備され、その後、事業者による計画案の承認を経て実施の運びとなる。

具体的な導入期日については現時点では未定とされているが、CRTCでは、3カ年事業計画^②に基づき、2005年～2006年に携帯電話のLNP導入についての検討を予定しており、また、2005年2月には、カナダ政府がCRTCに対し、携帯電話のLNP導入を迅速に進めるよう勧告していることから^③、遅くとも2006年中には、正式導入されると見られている。

なお、携帯電話事業者の中には、競争事業者 (CLEC) として規制を受けている事業者もいるが^④、その場合、CLECとしてナンバーポータビリティ提供が義務付けられているため、これらの事業者の加入者は、限定的にナンバーポータビリティが利用可能となっている^④。



① (脚注1)

今回LNP導入に合意したのは次の事業者： Aliant Mobility、Bell Mobility、Bruce Municipal Telephone System、MTS Mobility、Rogers Wireless (Fidoを含む)、SaskTel Mobility、Sogetel Mobilite、Telebec Mobilite、TBayTel Mobility、TELUS Mobility

② (脚注2)

CRTC 3-Year Work Plan 2005-2008 (2005年4月)

③ (出典)

Budget 2005: Department of Finance Canada (2005年2月23日)

④ (脚注3)

CLECである携帯電話事業者は、タリフ及び他事業者との協定についてCRTCの認可を得ることが義務付けられるなど、規制面での負荷は大きくなるが、着信料金の認可を受ければ、長距離トラヒックの着信に対してアクセスチャージを徴収することが認められるというメリットがあるため、CLECとして規制を受ける方を選ぶ携帯電話事業者もある。

④ (脚注4)

前述の"City Fido"サービスの加入者は、固定電話から携帯電話へのナンバーポータビリティが可能となっている。

📖 執筆者コメント

CRTCは、カナダで携帯電話の普及があまり進まない原因について、他の主要な市場と比較して次のように分析しているが、最後の項目を除き、お隣の米国にも共通する内容となっている。

- ・通信方式が混在している（GSM、CDMA、TDMA）
- ・プリペイド式サービスの比率が低い
- ・通話を受けた側がエアタイム・チャージを負担するMPP方式（Mobile Party Pays）を採用している
- ・固定電話の普及率、品質が高い
- ・ナンバーポータビリティがまだ導入されていない

また、音声サービスの利用が中心で、モバイル・データがあまり普及していないという点も同じだが、これはやはり、両国民とも、QWERTYと呼ばれるパソコン型のキーボード配列になじんでおり、携帯電話の数字だけのキーパッドによる文字入力が苦手ということが大きく影響しているのだろうか。そう考えれば、最近、急速に売り上げを伸ばしている”BlackBerry”（モバイル統合端末）で有名なResearch in Motion（RIM）の本拠地がカナダということも頷ける話ではある。

📖 出典・参考文献

CRTCホームページ（<http://www.crtc.gc.ca/eng/welcome.htm>）

CWTAホームページ（<http://www.cwta.ca/CWTASite/english/index.html>）

各事業者ホームページ

KDDI総研 R&A各号